

リレーコラム 夢をつないで

第11回

医療機関の障害者雇用ネットワーク
代表世話人 依田 晶男



「共感の輪」を 広げよう

Profile

1981年厚生省入省。97年から2年間、障害者雇用対策課で障害者就業・生活支援センター、トライアル雇用、ジョブコーチ事業など現在に続く支援策の立案に関わる。内閣府で障害者権利条約の交渉に関わるほか、国立がん研究センターで障害者雇用を推進。2015年厚生労働省を退職し「医療機関の障害者雇用ネットワーク」を設立。全国土木建築国民健康保険組合専務理事、精神保健福祉士。

12月のヤマト福祉財団の受賞祝賀会は、小倉さんに共感した懐かしい顔ぶれに再会できる機会で、毎年楽しみにしています。ヤマト運輸の労働組合の方も多数参加され、全員経営の考えが福祉の分野にも受け継がれているのを感じます。本業の宅配事業でも、障害のある方に様々な働く機会を作られている背景には、こうした社員の皆さんの理解があるのでしょう。最近は、社員のメンタル面も含めた「健康経営」に企業の関心が向けられ、学生もそういう企業を選ぶ時代になりました。障害のある方が活躍できる職場は、社員にとっても働きやすい職場でしょう。

私自身も、3年前に厚労省を退職したのを機に、仕事とは別にライフケースにも取り組もうと考え、「医療機関の障害者雇用ネットワーク」を立ち上げました。医療という専門分野でも、障害のある方の力を発揮できる職域が豊富にあることを、医療関係者や就労支援関係者に知つてもらおうと、ホームページで情報発信しています。障害の特性を踏まえた業務にさえ出会えれば、思いがけない力を發揮されます。そうした姿を見て、ともに喜びを感じられます。もう一つの「共感の輪」が、少しでも社会に広がることを願っています。

厚生省の障害者雇用対策課にいた1998年6月、スパンベーカリー銀座店の開所式に参列したのが、スワンとのお付き合いの始まりです。翌年、王子養護学校の小島靖子先生たちが十条店を立ち上げ、厚生省の職場にも毎週パンが宅配され、数年後には庁舎内にスワンの売店もできました。そこで、障害のある方の働く姿が中央官庁の職員や来庁者にも身近なものとなりました。内閣府で障害者施策を担当した頃は、「百聞は一見に如かず」と言つては、近くの赤坂店に来客をお連れする機会も多かったです。

財団理事長の小倉さんは、セミナーなどでお話しする機会が度々ありました。宅急便事業を巡る行政との戦いから、役人嫌いの強面イメージを想像していましたが、お会いしてみると、とても温かみのある方でした。人を活かすことの大切さをソフトな声に包み、熱く語られる姿に共感しました。

CONTENTS

表紙写真

ヤマト運輸労働組合長崎支部の蛭谷淳一支部執行委員長に、五島うどんの説明をする五島あすなろ作業所(長崎県五島市)の利用者・中村力さん。中村さんは、在籍26年の大ベテラン。

会場ごとにサブテーマを設定し、議論を重ねる

2018年度障がい者の働く場

パワーアップフォーラム

経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して

【瀬戸理事長の受賞者訪問02】

第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者・中崎ひとみさん
人の力は大小いろいろ。

互いに支え合う石垣のように強い組織を。

03

09

14

助成先レポートVol.35

NPO法人五島あすなろ会 五島あすなろ作業所(長崎県五島市)

離島に暮らしながら自立する道

この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
地域とつながり、
地域によろこばれる存在へ。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。